

－発表要旨・論文－

## 一般演題(2)

### 1. 内視鏡的大腸粘膜切除術(大腸EMR)に対する病棟看護師の理解と行動の変容 ～内視鏡室看護師の教育的関わりを通して～

都城医療センター

外来 ○青野美根子 白尾八智重 前村 香織 井上 祥子

#### 【研究目的】

内視鏡室看護師が病棟看護師に内視鏡的大腸粘膜切除術（以下大腸EMRとする）に対する勉強会や機会教育を行う事による病棟看護師の理解や行動の変容を明らかにする。

#### 【調査期間】

平成28年12月～平成29年5月

対象者：研究に同意を得た消化器内科病棟看護師26名

①内視鏡室看護師が前処置と大腸EMR治療の看護について勉強会実施 ②勉強会実施前後に前処置と大腸EMR治療の看護に関するアンケート実施 ③大腸EMR治療中の病棟看護師の看護行動の評価を実施 ④アンケート結果と看護行動の評価は単純集計を行い勉強会前後のデータを比較。本研究は所属施設の看護研究倫理審査委員会の承認を得た。

#### 【結果】

勉強会前後で、前処置の理解度は下剤内服開始の注意事項の説明、前処置後の排便チェックタイミング、前処置不良時の対処の3項目で最大20%上昇した。大腸EMR治療の理解度は大腸EMR治療の理解、大腸EMR治療患者の情報収集、大腸EMR治療に入室前の確認事項、大腸EMR治療のバイタルサイン測定タイミング、大腸EMR治療中の観察事項、大腸EMR治療後病棟で継続看護の6項目で最大15%上昇した。大腸EMR治療中の看護行動の変化については、金属類除去の確認、治療中のバイタルサイン測定・観察、治療中の薬剤投与時観察の3項目で最大33%上昇した。

#### 【考察】

前処置については、病棟看護師が前処置の重要性を理解でき、排便状況のアセスメントに役立っていたと考える。病棟看護師が前処置観察の具体的な行動ができる様にタイムスケジュールの説明を行った結果、実際に治療時の前処置状況は改善され治療開始時間も以前より早くなった事から行動の変容がみられたと考える。大腸EMR治療については勉強会

で入室前、治療中、治療後の看護のポイントや治療中の偶発症・合併症を踏まえた説明を行った事で関連付いた観察の視点に繋がったのではないかと考える。また、勉強会で患者指導の説明を行った事で病棟看護師が患者に具体的な患者指導ができたと考える。

### 【結論】

前処置と大腸EMR治療に関して勉強会参加後は理解と看護行動の改善が見られた。内視鏡室看護師と病棟看護師が患者に対する看護の視点を共有し、内視鏡室と病棟間で継続した看護を患者に提供する為に勉強会や機会教育は効果があった。

## 2. ヒマシ油をカプセルに充填した大腸カプセル内視鏡検査

医療法人 新生会 高田中央病院 消化器疾患内視鏡センター  
○犬丸 吉人・藤岡 利生・勝田 真琴  
大分大学医学部附属病院 消化器内科  
水上 一弘

### 【背景】

当院では2014年に大腸カプセル内視鏡（以下CCE）を導入し、様々な工夫で安楽な検査を目指しています。今回、検査完了時間短縮を目的とし、ブースターとして使用しているクエン酸マグネシウムに加え、ヒマシ油を使用し良好な成績を得たので報告する。当院の特徴としては、油特有の飲み難さや気分不良を考慮して、空カプセルに充填（以下ヒマシ油C）して使用した。

### 【対象】

2014年12月から2017年7月にCCE検査を実施した44例。男性13名：女性31名で平均年齢は67歳。

### 【方法】

日本薬局方規定No.000のゼラチンカプセルを使用し1カプセルあたり15ml弱のヒマシ油を充填したものを使用した。充填はCCE嚥下後にスタッフが異物混入等を考慮して行った。

### 【検討1】

ヒマシ油C使用前（以下Control群）と10ml（7カプセル）・15ml（10カプセル）を使